



和文化シンポジウム

日時

令和7年

2月17日(月) 14:00~16:10

会場

農林水産省講堂

東京都千代田区霞が関1-2-1(7F)

定員

先着200名

参加費無料
事前登録制

プログラム

基調講演

日本茶の海外需要拡大の背景にあるもの

佐塚高氏 日本茶輸出促進協議会

畳

海外で畠が増えている? ~畠市場・創造への挑戦

内藤誠治氏 畠でおもてなしプロジェクト
実行委員会 チームリーダー

花

海外から、 いけばなを見直してみる

柏谷尚弘氏 一葉式いけ花 家元

事例紹介

茶

「日本茶エバンジェリスト」の現状

松本靖治氏
(一社)国際日本茶協会 共同経営責任者

着物

横浜で着物文化の魅力発信を考える

山口洋文氏 (株)新日屋 代表取締役

パネル ディスカッション

外からの目を前にして共通の問題点と連携の可能性を探る

パネラー：事例紹介者 モデレーター：田中仙堂氏 東京茶道会 理事

和文化は、暮らしを彩る文化として日本人に受け継がれてきたものであり、いぐさ、茶、花き、蚕糸といった我が国各地で生産されてきた農産物と強く結びついたものです。こうした農産物の生産と関連産業の発展を通じて、和文化は、地域経済を支える重要な役割を果たしてきたところです。

今回のシンポジウムでは、いぐさ、茶、花き、蚕糸の4業界が連携して和文化の発信に取り組む「和文化・産業連携振興協議会」会員の取組をはじめとして、海外で日本の产品・文化がどのように受け入れられているのかという事例報告の中から、国内での和文化に関する需用喚起のヒントを探ります。取組の中で明らかとなった問題点も率直に共有することで、業界相互の理解と連携の必要性について、認識の向上を図ります。業界関係者の方、また、和文化に興味を持たれる皆様の参加をお待ちしております。

申し込み
方法

右記QRコードより内容を確認の上、お申
込みをお願いします。
締切：2月12日(水)17:00



問合せ先

農林水産省農産局
果樹・茶グループ 三村、大城
TEL 03-6744-2512

※ お申込みによって得られた個人情報は、厳重に管理し、本シンポジウムの運営のみに使用させていただきます。

農林水産省

協力：和文化・産業連携振興協議会

和文化・産業連携振興協議会について

和文化・産業連携振興協議会は、和文化に深く関わる業界からの自発的な要請を受けて農林水産省の生産局（当時）が定期的に開催した「東京オリンピック・パラリンピックを契機とした和の文化の発信に係る打ち合わせ」での検討を踏まえ、い草（熊本県い業生産販売振興協会・畳でおもてなしプロジェクト実行委員会）、茶（日本茶業中央会・東京茶道会）、花き（日本いけばな芸術協会）、蚕糸（大日本蚕糸会）の四業界が初めて横断的に連携し、それぞれと関連の深い和文化団体との連携を深めていく組織を令和元年6月に結成したものです。



協議会が発足して間もなく、新型コロナウイルス感染症が拡大し、世界中がパンデミックとなりましたが、コロナ禍でも生産・文化団体との連携を広げ、和文化発信の核となるべく、令和3年度には『和文化生活宣言』を策定しました。また、令和4年・令和5年度には「きものの日」シンポジウム、令和5年度には和文化シンポジウムを農林水産省と協力して開催してまいりました。

昨年に引き続いての今回の和文化シンポジウムは、生産から流通・消費、業界の枠を超えた和文化・産業連携振興協議会の特性を生かして、い草・蚕糸業・茶業・花き産業に関わりの深い関係者がそれぞれの事例を持ちより、互いに参考することで、和文化を未来につないでいくための課題解決の糸口を探るものです。



— 和文化生活宣言 —

和文化とは

日本の自然にはぐくまれた幸をいつくしむ心の在りよう

和文化は、日本の大地にはぐくまれた幸を楽しむ知恵です。
この知恵を生かして日々の暮らしを彩る生活を支える新しい市場を作るために、
私たちは、和文化・産業連携振興協議会に集いました。

和の生活文化は

- 一、日本の美しい四季と共にあります
- 二、和の素材を作る産地に支えられています
- 三、日本人の人を想いやる心によって育てられてきました
- 四、日本のおもてなし文化を育んできました
- 五、日本が世界に誇る文化です